

令和元年度 港湾振興費の内三河港利用促進戦略検討調査業務 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

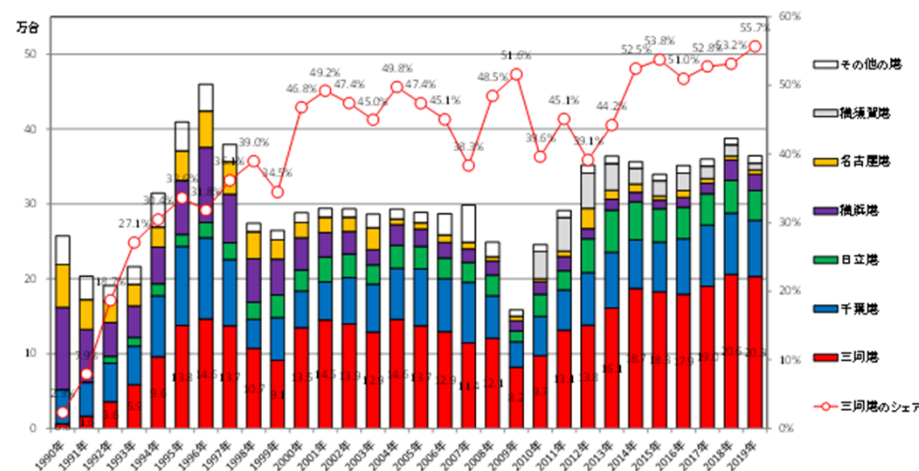
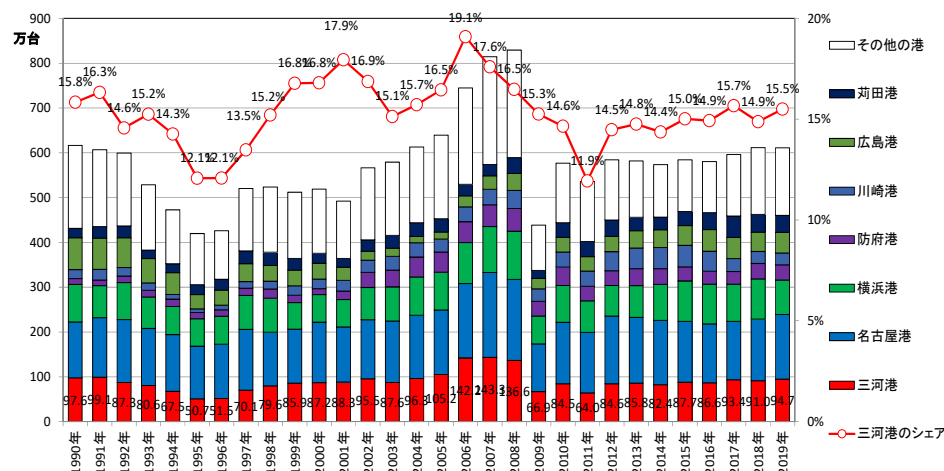
1. 業務の目的

三河港は26年連続日本一の輸入自動車をはじめとする世界的な自動車輸出入港湾であり、完成自動車は全貨物取扱量の7割を占める。その為、完成自動車の動向は三河港の取扱貨物量に直結しており、適切な状況把握やそれに伴う施策の実施は、三河港の振興業務として必須である。

そこで、本調査は、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けて以下3点の調査を行った。①完成自動車の輸出入等の動向調査から、完成自動車の取扱状況、将来見通し、三河港利用課題について把握した。②コンテナ貨物の動向調査からコンテナ集荷策を検討した。③新たなコンテナ貨物利用促進のため木材輸出に着目し現状と課題を把握し貨物利用促進策を検討した。

以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

2. 調査結果(一部抜粋)



■輸出港湾の取扱状況

2019年の日本から海外への完成自動車輸出台数は611万台で、2018年の実績からは大きな変化はなかった。

2019年の港湾別の輸出台数をみると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の144万台(前年137万台)、次いで、三河港の94万台(同90万台)、横浜港の76万台(同89万台)である。

三河港の輸出シェアは15.5%である。それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が45万台(同42万台)、日産の輸出拠点である刈田港が37万台(同39万台)となっている。

■輸入港湾の取扱状況

2019年の海外から日本への完成自動車輸入台数は36.4万台で、2018年の38.7万台から約2.3万台減少した。

2019年の港湾別の輸入台数をみると、三河港が20.3万台(前年20.6万台)で27年連続全国1位となった。三河港の輸入台数の全国シェアは前年比2.5ポイント増加して55.7%となった。

三河港に次いで、千葉港が7.5万台(同8.1万台)、日立港が3.9万台(同4.3万台)、横浜港が2.1万台(同2.7万台)、横須賀港が0.8万台(同1.4万台)である。